

佐藤良仁

Yoshihito Sato

50歳からの
新しい
稼ぎ方

50

はじめに

50歳という年齢は、お金と仕事、その両面において今後の人生を考えざるを得ない年齢と言えます。

お金の面では、一般的なサラリーマンの年収は20代から40代の間に上がっていき、だいたい50代前半でピークを迎えます。

ただ、ピークを迎えるのは入ってくるお金だけではありません。出ていくお金、つまり人生でもっとも出費が増えるのも50代なのです。まだまだ返済が続く住宅ローンや、大学卒業に向けた子どもへの教育費・養育費もピークを迎える、とても厳しい時期です。また、それらに加えて老後のための資金も頭をよぎりはじめます。

仕事の面では、会社のなかで重要なポジションに就くようになるものの、ほとんどの人はいまの会社における自分の未来は見えてしまっている状態です。経営幹部になって、さらに年収が上がる見込みがある人はほんのひと握りで、そのまま会社で働き

続けても良くて横ばい、50代後半には多くの人の年収はだんだん下がっていきます。出向や転籍を命じられたり、会社の業績が悪い場合には、早期退職者の対象となることもいまや決してめずらしいことはありません。

50代における離職の理由は、他の年代と違って圧倒的に会社側の理由であることが多いのです。離職者の離職理由を調べた厚生労働省のデータによると、50代前半では4人に1人、50代後半では3人に1人が会社側の都合による離職なのです。

では、もつともお金がかかる50代を乗り切り、さらに老後、お金の困らないようにするにはどうしたらいいでしょうか？

方法は、2つしかありません。

お金を貯めておくか、お金を稼ぎ続けるかです。

若いうちからせつせと貯金をして老後の準備をしておくというのもひとつの方法です。しかし、計画どおりにお金を貯めるということが難しいのはみなさんもこれまで生きてきて実感されていることだと思います。

ですから、この本ではもうひとつの「稼ぎ続ける」に焦点を当てています。50歳か

ら、無理なく、稼ぎ続ける方法です。この、無理なく、というのがポイントです。

私は2013年9月現在、55歳で11社の会社の顧問と、大学・専門学校合わせて4校の非常勤講師をしています。50歳までに培ったスキルを活かしながら生きがいをもって自由に楽しく稼いでいます。当然、収入もそれなりにあります。

忙しくはありますが、私は会社から求められて働いているという実感があって仕事を楽しんでいることもあり、いまは多くの会社で働いています。しかし、この本で紹介する生きがいをもって楽しく働いている50代、6代のみなさんは、時間的にも余裕をもって、無理なく、稼いでいます。

たとえば、次のような働き方をしています。

- ・ 外食業界4社の経営サポートで年収1200万円
- ・ 食品業界4社の商品開発支援で年収800万円
- ・ 製造業2社の生産管理支援で年収300万円

稼げる金額に違いはありこそすれ、この例のように働いて稼ぐことは誰にでもでき

ることです。

私は45歳を過ぎた頃、会社に勤めながらさまざまなことを考えました。

「何のために働いて来たんだろう？」

「なぜ、ひとつの会社に勤めていたはずなのに、いつのまにか複数の会社で働いているのだろうか？」

「なんで学歴もよくないし、有名人でもないのに、いろんな会社で必要とされているんだろう？」

「20年後、65歳になり自分は年金で悠々自適な生活を送り、孫の成長を見守るのだろうか？」

「引退生活って何をするのだろうか？ 引退する必要があるのだろうか？」

「自分の培ったことを使ってもっと違ったカタチで残りの人生を生きていくことはできないだろうか？ 稼ぐことはできないだろうか？」

本書は、45歳のときから右記に記述したようなことを考えて、諸先輩や同年代の友

人や若い世代のみなさんと、たびたび意見を交わし合いながら現在の生活に入るまでの筆者自身の心中や、みなさんの意見をまとめてみました。

会社に勤めるのでなく社会をひとつの会社と考え、必要とされる場所で働きながら稼ぐといったスタイルの提案と言い換えてもいいかもしれません。この本があなたの人生をより豊かにするきっかけになれば、筆者としてこれほどうれしいことはありません。

さあ、会社を卒業して、自分を活かして社会の中で自由に働き、稼ぎ、生きようではありませんか。

第1章

逃げ切った世代と逃げ切れなかった世代

もう年金だけでは生活できない

世界一の高齢大国 日本

すでに崩壊している公的年金

はじめに.....

3

16

第2章

なぜ、50歳から新しい稼ぎ方が必要なのか

50歳という年齢は転換期

晩婚化と支出のピーク

会社員としての50歳という年齢

転職でも、起業でもない、第3の選択

変わらぬ高齢者の転職市場

高まる高齢者層の起業率

顧問という第3の選択肢

35

32

日本経済に未来はあるのか？

日本経済の4つの未来

自己責任の時代到来

老後の資金はいくら必要なのか

介護の実態を知っておこう

25

20

稼ぎ方のパターンはいろいろ

強みを見つけて武器にする

- 案件ケース① 海外展開支援 / 案件ケース② 後継者育成支援 /
- 案件ケース③ ブランディング支援 / 案件ケース④ 評価制度の導入支援 /
- 案件ケース⑤ 工場生産性向上支援 / 案件ケース⑥ 新規事業支援 /
- 案件ケース⑦ 社員教育支援 / 案件ケース⑧ 広告・販売促進支援 /
- 案件ケース⑨ 販路拡大支援 / 案件ケース⑩ 経営全般支援 /
- 案件ケース⑪ 上場準備支援 / 案件ケース⑫ M & A 支援 /
- 案件ケース⑬ S P A 構築支援 / 案件ケース⑭ 管理会計支援 /

社会が求めた新しい働き方

多くの人材が市場に放たれている
必要なときに必要な期間だけ即戦力として

顧問という仕事の4つのメリット

- メリット1……費用がいらぬ
- メリット2……今ある知識ですぐにはじめられる
- メリット3……社会的責任がともなわぬ
- メリット4……時間の使い方を自分で選べる

顧問の契約までの流れと料金

顧問契約の期間と報酬は？

シニア世代の理想の働き方

効率よく稼ぐことができる
時間に縛られない
やりがいをもって働ける

新たな可能性にチャレンジできる

非常勤講師として働いてみる
非営利団体に活動してみる

案件ケース⑮ FC事業化支援／案件ケース⑯ 資産運用支援／
 案件ケース⑰ 通販事業構築支援／案件ケース⑱ 新卒採用支援／
 案件ケース⑲ 継続可能な経営化

新しい稼ぎ方を実践している人たち

20代のときから考えてきた独立を果たし年収1200万円……………142

独立を視野にキャリアを築いてきた

世の中にインパクトを与える企業の手伝いをするのが喜び

次世代の人のために道なき道をつくる

週3回1社、週1回1社の合計2社の顧問で年収800万円……………149

早期退職を機に、会社組織に属さない働き方へ

顧問という立場の難しさ

新しい顧問のイメージをつくる

食品業界4社のマーケティング支援で年収800万円……………154

顧問という仕事を選んだ5つの理由

課題解決には、辛抱と根気が必要

とにかく継続！

年金プラスオン300万円でお金にも余裕がある充実した生活……………162

取締役定年を機に、第2のビジネスライフをスタート

期待以上の収入と十二分なやりがい

大企業のノウハウを中小企業に

業界経験を活かし、3社の顧問で年収500万円……………170

会社員時代の人脈から

企業と企業を引き合わせるのが役目

若い芽を大切に

新しい稼ぎ方をはじめよう

キャリアの棚卸しをする……………

棚卸しで見えてくる新たな可能性

顧問マッチングサイトに登録しよう……………

1社ではなく、複数社に登録しよう

顧問としての自分のスタイルを確立しよう……………

顧問業の4つのスタイル

おわりに……………

参考文献……………